

研修報告 B 班 2 グループ

1. 気づきと発見

事前研修及び情報提供の内容を踏まえ、班員から学生の自主性の重要性に関する意見が多く挙げられた。創価大学の LTD の事例を聴き、学生の自主的な事前予習、学生の声を集約・反映させるための ICT 活用及びそのサポートが重要だと認識し、2 日目のグループ討議に臨んだ。

2. テーマ設定

大学の役割について考えた結果、大きく分けて教育と研究の 2 つが挙げられた。

教育については、社会で活躍できる優秀な人材を育成すること、また探究心や学習意欲の向上を促し社会人マナー（一般教養）を習得させることが求められるということが挙げられた。

研究に関しては、専門性が強く、議論するにあたって、グループ内で出し合う意見や情報が乏しかったため、今回は教育に焦点を当てて議論をした。

3. 問題点 ー学生の傾向についてー

問題点として、少子高齢化等の影響による学生の質低下が挙げられた。

具体的な意見として、①インターネットの普及によって情報収集が容易になり、学習意欲や探究心が希薄になっていること、②SNS 等の普及による直接的なコミュニケーション力の低下、③中等教育から高等教育に切り替わる段階での学修環境の変化（受動⇒能動）に対応しきれないことが挙げられた。

③の事例として、教務窓口で科目履修の方法がわからないという問い合わせをしてくる学生が多く見受けられるのが現状のようである。

4. 解決策の検討 ー大学は学生のために何ができるのかー

上記に挙げた現状を踏まえ、学生のために何ができるかということを議論した結果、解決策について「スペースの確保と提供及び活用」と、「学生の要望の反映」の二つに集約した。この 2 点の具体的な取り組み及び実現について、大学のイノベーションの提案として考察した。

5. 大学のイノベーションの提案

①スペースの確保と提供及び活用

（1）図書館の多目的利用に対する働きかけ

各大学の図書館の利用状況は、テスト前やレポート提出期限前の利用及び休憩目的の利用が多くを占め、それ以外の期間・時間帯の利用者は少ないと感じているという意見が挙げられた。そのため、図書館を学生の学びの場として今以上に活用する必要があると考え、議論を行った。

議論の結果、多くの大学で徐々に普及しているラーニングcommonsを設置することで、学生同士の学習及び交流（グループワーク）の場を提供し、学生の主体性を育み、学生同士で学習意欲を刺激し合えることが期待できるという結論に至った。

（2）課外活動の活発化

ここでいう課外活動とは主にサークル及びボランティア活動などを指す。

学生同士の縦横のつながりや、大学間交流の重要性について討議がなされ、組織で生きる大切

さを学ぶために、課外活動を活発に行うことができる環境作りと場所の提供が求められるとの結論に至った。

②学生の要望の反映

(1) 学生、教員、職員の三者が集まる場を利用した情報共有

三者が集まる場の具体例として食堂を採り上げ、議論した。昼食の時間などを利用して学生と教員、学生と職員といった立場の違う者同士が気軽に会話を行うことで、学生の要望を聴取し、反映させることができると考えた。学生の意見を取り入れ、学習に適した環境を作り出すために、共有スペースを充実させ、有効に活用する必要があるとの結論に至った。

(2) ICTの有効活用

i) WEB上での授業改善アンケートの定期的な実施

グループ内の所属大学における授業アンケートについて、ほとんどの大学が半期に1回紙ベースでしか実施していないことが判明した。それを受け、アンケート結果をもとにした授業改善が不十分ではないかという問題が浮かびあがった。改善策として、ポータルサイトなどを活用しアンケートを1回の講義ごとに実施し、学生からの意見を抽出する回数を増やすことで、開講中の授業改善が期待できるのではないかという結論に至った。

加えて、集計したアンケートの結果をシラバス上で公開することで、当該科目未履修の学生や他の教員への参考にもなるという意見も出された。

しかし、中には、アンケートに回答しない学生も出てくることが予想されるため、アンケートの回答を持って出席とする方式をとることも手段の一つとして挙げられた。

ii) 講義内容配信システムの導入および有効活用

校地間のテレビ会議システムを利用することや、YouTube等の動画配信サイトでのWEB配信を行うことで、受講した講義の復習が可能になると考えた。ICTを活用した講義の配信により、移動困難な学生に対して授業サポートが実施できることに加え、広報活動の一環としての有効性も期待できるため、導入を検討する必要があるとの結論に至った。

iii) 学生参加型講義の推進

クリッカーを授業に導入することで、授業中に小テストを実施し、結果を即座にアウトプットすることができるので、学生の学習意欲の向上に繋がるのではないかと考えた。そのため、積極的な導入と活用に向け働きかける必要があるという結論に至った。

6. まとめ ー大学職員に求められる役割ー

上述の提案を実現するためには教員の理解が不可欠となる。そのために、職員は教員に対して、従来の研究者という立場だけではなく、教育者としての高い意識を持たせるように働きかける必要がある。職員は教員と学生とのかけ橋となるよう働きかけ、より良い教育の場を提供しなければならない。

以上